Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-05-26

第2章　歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

井上，舞 ； 奥村，弘 ； 市澤，哲 ； 木村，修二 ； 加藤，明恵 ； 出水，清之助 ； 佐々木，和子 ； 松本，充弘 ； 室山，京子

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,20（2021（令和3）年度事業報告書）:44-60

(Issue Date)
2022-03-28

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013438

第2章
歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

兵庫県文化遺産防災研修会

兵庫県文化遺産防災研修会は、近年多発する大規模自然災害から地域の文化財を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や、博物館・資料館等の学芸員を対象に開催している研修会である。2017年7月のキックオフ集会を皮切りに、同年11月に第1回研修会を開催。その後、2018年度の準備期間を経て、2019年度は兵庫県全域で5回の研修会を実施し、県内ほぼ全ての市町職員の参加を得た。2020年度は中播磨地域を対象に、ワークショップをメインとする研修会を実施した。

本年度の研修会は、コロナ禍のためオンラインでの開催とした。対象地域は、神戸・阪神地域とした。プログラムは以下の通りである。今回は講義の時間を短めにし、ディスカッションの時間を長めに設定した。ディスカッションでは、これまでの研修会で開催したアンケートの結果をふまえつつ、「日常の体制をどう作っていくか」をテーマとした議論を行った。参加は14機関25名であった。

2021年度兵庫県文化遺産防災研修会
日時：2021年10月22日（金）13:00～16:30
会場：Zoomによるオンライン開催
プログラム：
13:00～13:10　趣旨説明
13:10～13:20　開会挨拶　甲斐昭光（兵庫県教育委員会事務局文化財課）
13:20～13:35　講義① 内田俊秀（京都造形芸術大学名誉教授）「文化財の被災予防について」
13:35～14:15　講義②「災害と被災資料レスキュー」松下正和（歴史資料ネットワーク／神戸大学地域連携推進室）
14:15～14:30　休憩
14:30～14:45　報告「アンケートに見る県内自治体の文化遺産防災上の課題」井上舞（神戸大学大学院人文学研究科）
14:45～16:20　ディスカッション「日常の体制をどう作っていくか」
16:20～16:30　閉会挨拶　奥村弘（神戸大学大学院人文学研究科）
主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、兵庫県教育委員会
協力：歴史資料ネットワーク、科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(研究代表者:奥村弘)研究グループ、大学共同利用機関法人人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

（文責・井上舞）

兵庫県地域創生局地域遺産課との連携

本年度は、兵庫津ミュージアム指定管理者候補

者選定委員会委員として、奥村が同会議に参加し、これまで地域連携センターが展開してきた兵庫津についての歴史研究と地域歴史遺産の保存と活用についての実践的研究の成果を反映させるよう努力した。

（文責・奥村弘）

兵庫県教育委員会文化財課との連携

兵庫県教育委員会文化財課との連携事業として、10 月 22 日（金）に神戸・阪神地域を対象に、文化遺産防災研修会を開催した（詳細：第 2 章「兵庫県文化遺産防災研修会」）。

（文責・奥村弘）

神戸市との連携事業

1. 神戸市文書館との連携事業

神戸市文書館との間で、2006 年度から共同研究「歴史資料の公開に関する研究」を継続して行っている。今年度の事業内容は、①神戸市文書館に収集・所蔵される歴史史料の整理、調査、さらに公開、活用のための土台作り、②神戸市文書館の来館者に対するレファレンスサービス（特に古文書の解読）であった。

また来年度に向けて、市内北部の史料調査について協議した。

（文責・奥村弘）

2. 神戸村文書の研究と成果の公開事業

神戸市立中央図書館が所蔵している神戸村文書の研究、その成果の公開活用事業を、神戸市教育委員会文化財課との共同研究として行った。今年度は神戸市側の予算の都合で半期のみ、資料の目録化事業を行った。市民を対象にした成果報告会を開く可能性も追求したが、結局新型肺炎対策のため、本年度の実施を見送らざるを得なかった。

（文責・市沢哲）

包括協定にもとづく灘区との連携事業

本年度は灘区と連携した活動はなかったが、別項で述べられる大学発アーバンイノベーション神戸の事業展開において、本事業で得られた知見や成果が一部活かされている。

なお、2021 年 2 月現在の『篠原の昔と今』（2005 年度発行）、『水道筋周辺地域のむかし』（2006 年度）の残部は共に約 180 部となっている。今年度も散発的ながら学外からの送付依頼があった。

（文責・木村修二）

神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

1. 神戸を中心とする文献史料所在確認調査

今年度本事業に関連する新規および継続中の調査はなかったが、別項で述べられる大学発アーバンイノベーション神戸の事業展開において、本事業で得られた知見や成果が一部活かされている。

なお、1 月に神戸市教委の担当者の来学があり、2002 ～ 3 年度に実施した神戸市灘区・東灘区における財産区への文献資料所在確認調査についての経験についての聞き取りをうけた。

（文責・木村修二）

2. 神戸大学附属図書館との連携

今年度は、図書館との協議の結果、一昨年度に受け入れた若林泰氏旧蔵文書のデータ確認を実施した。担当は、大学院生の下箱石響君を雇用して 9 月以降隔月で実施した。

次年度以降の展開については、あらためて図書館側と協議をする予定である。

（文責・木村修二）

住吉歴史資料調査会との連携事業

2018 年 4 月 1 日に発足した住吉歴史資料調査会（神戸市東灘区・住吉歴史資料館内）との連携事業は 4 年目を迎え、本年度も同会の調査活動に協力した。

調査活動においては、主に住吉村横田家文書（本住吉神社所蔵）および摂津国兎原郡住吉村文書（大阪歴史博物館所蔵）の翻刻を行ったほか、住吉良運商社文書（神戸市立博物館所蔵）の調査・翻刻を新たに進めた。

同会会員・菟原茶道会・地域住民から参加者を募り古文書勉強会を継続して行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021 年 7 月 29 日、11 月 25 日の 2 回のみの開催となった。また、神戸市による「大学発アーバンイノベーション神戸」助成研究「灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究」（研究代表者・加藤明恵）では、住吉歴史資料調査会の協力を受けて研究を進めている。

（文責・加藤明恵）

大学協定にもとづく小野市との連携事業

1. 小野藩家老家伊藤文書を用いた明治初期小野市域地租改正実施過程の歴史研究

2020 年度より「小野藩家老家伊藤文書を用いた明治初期小野市域地租改正実施過程の歴史研究」(共同研究) という課題名による連携事業を開始した。

神戸大学と小野市は、これより先の 2017 ～ 2019 年度にかけて、「小野地区歴史調査及び伊藤家文書を活用した小野市幕末・明治期の歴史研究」という課題名による連携事業を行っており、小野好古館所蔵の「伊藤家文書」の調査・研究を実施してきた。「伊藤家文書」は、旧小野藩の家老格で、維新後小野町戸長や初代小野村長を輩出した家の文書であり、近世前期から昭和 20 年代まで、約 7000 点に及ぶ史料が残されている。2017 ～ 2019 年度にかけての連携事業では、小野好古館の企画展との関連で、同文書内に残存する幕末・明治の軍隊に関わる史料の調査・研究を実施し、その成果を展示や講演という形で地域に還元してきた。

昨年度から開始された連携事業では、同文書内の地租改正関係史料の調査・研究を実施しており、本年度も継続して関連史料の翻刻・分析を進めている。なお、解読した地租改正関係史料については、全体の解説を付した上で、来年度以降に市民向けの冊子を刊行する予定となっている。

（文責・出水清之助）

2. 小野市域の村堂調査にかかるデータの整理と分析

小野市では 2021 年度より文化財保存活用地域計画の策定を進めており、2021 年 11 月には神戸大学との間で「小野市域の村堂調査にかかるデータの整理と分析」という課題名の受託研究契約が締結された。本受託研究は、小野市が市内の村堂の文化財調査を行い、そのデータを地域連携センターで整理・分析することにより、村堂内にある文化財の種類とその分布状況を把握し、今後の文化財保存活用地域計画の策定や、防災・防犯対策を検討するための基礎資料とすることを課題とする。

小野市では 11 月より市内の 6 地区 (小野・河合・来住・市場・大部・下東条) にある村堂の悉皆調査を順次実施している。11 月 11 日に実施された小野市垂井町の地蔵堂調査には、地域連携センターの井上舞・加藤明恵・出水清之助も立ち合い、調査現場の見学を行った。調査は学芸員を中心に、地域のボランティアの方々も関わりながら進められ、仏像等の写真撮影、大きさ・材質の測定が行われた。地域連携センターでは、蓄積された調査データの整理作業を実施し、村堂ごとに取りまと

めを行っている。なお、作成した調査報告書は地元に配布し、文化財に関わる情報を周知・共有することで、今後の保存に活かす方針である。

（文責・出水清之助）

大学協定にもとづく朝来市との連携事業

神戸大学と朝来郡生野町は2005年3月に連携協定を締結した。同年4月の市町村合併により、生野町は朝来市生野町となったが、協定は朝来市に引き継がれている。以降、人文学研究科地域連携センターは生野町域を中心に、市域所在の歴史史料の保全・活用に取り組んでいる。今年度は、以下の事業に取り組んだ。

1. 石川家文書整理会の開催

石川家文書は、朝来市生野町に所在する石川家に伝わる、近世～近代にかけての膨大な資料群である。2008年度より同家文書の調査を開始し、2015年度からは新出資料の整理のため、地域住民の協力を得て、毎月第2・第4火曜日に石川家文書整理会を開催している。現在は、外蔵にあった文書群の目録作成･写真撮影に取り組んでいる。

先年からのコロナ禍のため、今年度も4月～6月、および8・9月の整理会は休止となった。現在は、感染症予防対策に留意しながら活動を再開中である。作成した目録は、石橋知之（人文学研究科博士課程前期課程)がチェック作業を行った。次年度以降も、引き続き目録作成を進めていく予定である。

2. 多々良木歴史研究会への協力

多々良木歴史研究会は、2017年度に同公民館より明治時代の区有文書が発見され、これを整理するために地域住民有志によって結成された。以降、毎月第2水曜日に、区有文書や地域住民から区に寄贈を受けた古文書の整理作業を行っている。今年度はコロナ禍のため、8月、9月、2022年2月の活動は中止となった。整理作業自体は順調に進んでおり、3月で現在把握している全ての史料について、目録作成と写真撮影を終えた。次年度以降の活動については、今後協議する予定である。

3. 山田家文書の調査・整理

本年度も引き続き、山田家文書の目録作成および写真撮影を行った。

（文責・井上舞）

部局協定にもとづく丹波市との連携事業

神戸大学大学院人文学研究科と丹波市は、2007年度に協定を締結した。以降、市域に所在する歴史資料の調査を開始し、地域住民を交えた資料の保全・活用に取り組んでいる。本年度は、次のような事業に取り組んだ。

1. 連続講座および古文書相談会の実施

例年開催している連続講座を本年度も開催した。本年度は「見る･知る･学ぶ　丹波の歴史」をテーマとし、以下の日程で開催した。

本年度もコロナ禍のため、会場ごとに参加人数を制限し、事前予約制とした。当日も受付において検温・入室前の消毒をお願いするなど、感染症対策に十分留意しながらの開催となった。また、当日の講演は録画し、配付資料とともに丹波市のHPにて公開された。

歴史講座の後には、古文書相談会を開催した。本年度の相談は4件であった。

第1回：7月17日（土）井上舞「山南地域に残された高札－2020年度発見資料から－」、於山南住民センター

第2回：8月28日（土）松下正和「江戸時代の村の仕組みと運営について－松森村の事例から－」、於春日住民センター

第3回：9月25日（土）山内順子「「生類憐れみの令」に向き合った上竹田の人々」、於ライフピアいちじま

第4回：10月30日（土）出水清之助「細見家文書からみる地域の歴史」、於青垣住民センター

第5回：12月11日（土）加藤明恵「柏原歴史民俗資料館所蔵資料を活用しよう」、柏原住民センター

第6回：2月26日（土）井上舞「丹波市域の鉱山について」、氷上住民センター

（文責・井上舞）

2. 丹波市内の古文書調査

本年度は下記の通りの調査を行った。また調査で撮影した画像をもとに、学内で目録作成等を行った。

① 丹波志掲載神社調査：2021年5月28日、29日

② 山南町岡本自治会所蔵の高札等の調査：2021年6月24日

③ 細見綾子生家資料調査・および資料保全処置：2021年8月11日

④ 旗本川勝氏の支配村の調査：2021年8月27日、28日

⑤ 細見綾子生家資料保全処置：2021年8月28日

⑥ 細見家・徳田家文書、および柏原歴史民俗資料館所蔵資料調査：2021年9月1日

⑦ 旗本川勝氏の支配村の調査：2021年9月10日

⑧ 丹波古文書クラブへの参加、上小倉区有文書を活用したブックレットの贈呈：2021年10月8日、9日

⑨ 東芦田村(細見佐治右衛門)文書調査：2021年10月26日

⑩ 細見綾子生家資料保全処置、および展示協力：2021年10月30日

⑪ 山南町岡本自治会所蔵の高札に関する成果報告会：2021年11月6日

⑫ 戸平厳島神社見学：2021年11月20日

⑬ 足立宏幸家文書調査：2021年12月25日、26日

（文責・井上舞、出水清之助）

3. 丹波古文書倶楽部への協力

本年度も毎月第2土曜日に丹波市住民センター（柏原・春日）および丹波の森公苑を会場に古文書解読の例会が開催され、木村がチューターを務めた（8月は夏期休会）。なお、今年度は新型コロナ感染拡大の影響をうけ、2021年5月、6月、9月、2022年2月の例会が中止となった。

（文責・木村修二）

大学協定にもとづく加西市との連携事業

加西市と神戸大学は2009年5月に連携協定を締結した。これにもとづき、今年度は次のような事業に取り組んだ。

1. 加西市戦争遺産資料拡充調査

『加西市近代遺産調査報告書』の作成

2019年度より、青野原俘虜収容所および鶉野飛行場跡に関する文献史料調査・建造物調査・測量等、各種調査に取り組んできた。昨年度、それらの成果をPDF版『加西市近代遺産調査報告書1　青野原俘虜収容所Ⅰ　鶉野飛行場跡Ⅰ－令和元・2年度戦争遺跡総合調査－』としてまとめた。本年度、同報告書について、レイアウト等を改め、冊子版を作成した。

また、北条高校に保管されていた『続北条町志』について、教育委員会が中心となって活字化を進めていたが、これを『加西市近代遺産調査報告書2　続北条町志』として発行した。

また、前神戸大学発達科学部教授の岩井正浩氏が収集した、青野原俘虜収容所関係新聞記事について、岩井氏および教育委員会と協力しながら編集作業を進め、PDF版『加西市近代遺産調査報

告書３［資料版］地元紙にみる姫路・青野原収容所のドイツ兵俘虜と音楽活動』としてまとめた。

（文責・井上舞）

2. 加西市戦争遺跡調査委託

2020 年度より、加西市役所鶉野未来課との連携事業で、鶉野飛行場跡（姫路海軍航空隊）に関する各種調査、および現在建設中の加西市地域活性化拠点施設（「sora かさい」）整備への協力を行っている。今年度は、防空壕のレーザー測量や関連史料のデジタル化に取り組んだ。また施設内で展示される動画製作に意見を述べる等の活動を行った。このほか、また加西市鶉野飛行場検討懇話会等への参加等、施設利用の協議にも参加した。

年度末には、姫路海軍航空隊の前進基地であった串良基地跡等、国内に残る航空隊跡の戦争遺跡への調査を予定している。

（文責・佐々木和子、井上舞）

3. その他

井上が、加西市文化財審議委員として、３月２日に開催された、令和３年度第２回委員会に出席した。

（文責・井上舞）

尼崎市との連携事業

尼崎市立歴史博物館の文書館部門の専門委員を務め、同館の運営について助言を行った。

（文責・市沢哲）

三木市との連携事業

1. 三木市史編さん支援事業

2016 年度より三木市教育委員会教育企画部文化スポーツ振興課市史編さんグループで進められてきた新三木市史編さん事業について、今年度も「受託型協力研究」として特命教員を派遣し、木村修二が担当した。

編さん事業全体としては、まず昨年度末の３月 31 日付で新三木市史の第２回配本となる地域編『志染の歴史』が刊行されたことが挙げられる。リリースは６月１日となったが、新型コロナ感染拡大の影響もあり、志染地区地元でのプレゼンテーションなどをほとんど実施することができなかった。

市史編さん事業全体の方針を確認・決定する市史編さん委員会は、７月 16 日に今年度１回目が開催された。本稿執筆後の３月５日は２回目が予定されている。

また、市史編さん委員会に先立ち通史編専門委員会も７月７日に zoom によるリモート会議で実施された。通史編の各部会の調査活動方針の確認、および実施状況の報告、予算執行状況などが協議された。なお、今年度２回目となる通史編専門委員会がやはり zoom によるリモートで２月 12 日に開催され、来年度刊行予定の古代・中世資料編の活動状況を中心に協議がなされた。

地域編専門委員会は、本稿執筆までに開催はなされなかったが、２月 26 日に開催が予定されている。次年度は、地域編専門委員会についても２回開催をめざす予定である。

本稿執筆時点では、第３回・第４回配本となる地域編『緑が丘の歴史』『吉川の歴史』の編さんが佳境を迎えており、予定通り進行すれば、今年度末に刊行予定である。

①市史編さん委員会

- 2021 年７月 16 日　於 みき歴史資料館３階会議室
- 2022 年３月５日予定　於 みき歴史資料館３階会議室

②通史編専門委員会

- 2021 年７月７日　zoom によるオンライン会議
- 2022 年２月 12 日　zoom によるオンライン

会議

③地域編専門委員会

・2022年2月26日予定　於 みき歴史資料館 3階会議室

三木市史編さん事業の調査研究活動については、各専門委員会に配置された部会単位で行われる。通史編専門部会については古代、中世、近世、近代、現代、文化遺産、考古、自然環境の8部会で構成される。今年度は、来年度に刊行が予定されている古代・中世資料編を控え、古代史部会と中世史部会は毎月ないし隔月で協議を実施した。古代史部会はzoomによるオンライン会議で進められたが、中世史部会は、一部除き神戸大学での対面による協議を行った。古代史部会では、資料編に掲載予定の各資料について綱文、史料本文、読み下し文、解説文の確認を行ったが、中世史部会は、掲載予定の史料が多いため綱文と解説のみの協議を行った。その他の部会は1～2回の協議が開催され、調査の現況や今後の調査方針等について議論が交わされた。通史編各部会の協議開催状況は下記の通りである。

・4月13日　第1回自然環境部会　zoomによるオンライン協議
・4月20日　古代史・中世史部会長協議　zoomによるオンライン協議
・5月13日　第1回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・6月10日　古代史・中世史合同部会　zoomによるオンライン協議
・6月11日　第1回中世史部会　於神戸大学（オンラインハイブリッド）
・6月12日　第1回近世史部会　zoomによるオンライン協議
・7月29日　第2回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・8月28日　第1回近代史・現代史合同部会　zoomによるオンライン協議
・9月2日　第2回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・9月14日　第2回中世史部会　於神戸大学（オンラインハイブリッド）
・9月23日　第3回中世史部会　zoomによるオンライン協議
・9月30日　第3回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・10月21日　第4回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・10月22日　第4回中世史部会　zoomによるオンライン協議
・11月14日　第5回中世史部会　於神戸大学（オンラインハイブリッド）
・11月18日　第5回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・12月12日　第6回中世史部会　於神戸大学（オンラインハイブリッド）
・12月18日　第2回近世史部会　zoomによるオンライン協議
・12月23日　第7回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・1月13日　第2回近現代史合同部会　zoomによるオンライン協議
・1月27日　第8回古代史部会　zoomによるオンライン協議
・2月23日　第7回中世史部会予定　於神戸大学（オンラインハイブリッド）予定
・2月24日　第9回古代史部会予定　zoomによるオンライン協議予定
・3月10日　第10回古代史部会予定　zoomによるオンライン協議予定
・3月27日　第8回中世史部会予定　於神戸大学予定
・3月30日　第1回現代史部会予定　zoomによるオンライン協議予定
・3月31日　第11回古代史部会予定　zoomによるオンライン協議予定
・3月31日　第3回近現代史合同部会予定　zoomによるオンライン協議予定

次に、地域編については、地域住民を中心とする地域部会によって担われているが、昨年度末に『志染の歴史』の刊行がなされたため、志染部会は昨年度３月をもって解散となった。引き続き吉川部会、緑が丘部会、三木部会、青山部会の活動が進められ、今年度より新たに細川部会と別所部会が立ち上がったので、６つの地域部会が同時に進行する事態となった。各地域部会では地域編編さんに向けて、月１回程度の協議のほか、地域内の史料や文化遺産の調査に取り組んだ。今年度の協議については下記の通りである。

①志染部会（※昨年度報告書執筆以降分）
- 2021 年度２月 18 日　第 35 回
- 2021 年度３月 18 日　第 36 回（最終回）、３月 31 日付で部会解散

②吉川部会（※昨年度報告書執筆以降分）
- 2021 年３月５日　第 22 回
- ４月９日　第 23 回
- ６月 18 日　第 24 回
- ７月９日　第 25 回
- ９月 17 日　第 26 回
- 10 月 29 日　第 27 回
- 11 月 25 日　第 28 回
- 12 月 24 日　第 29 回
- ２月４日　第 30 回
- ２月 25 日　第 31 回予定
- ３月 11 日　第 32 回予定
- ３月 25 日　第 33 回（最終回）予定、３月 31 日付で部会解散予定

③緑が丘部会（※昨年度報告書執筆以降分）
- 2021 年３月 17 日　第 21 回
- ４月 21 日　第 22 回
- ６月 16 日　第 23 回
- ７月 21 日　第 24 回
- ８月 18 日　第 25 回
- ９月 22 日　第 26 回
- 10 月 26 日　第 27 回
- 12 月１日　第 28 回
- １月 19 日　第 29 回
- ２月 22 日　第 30 回
- ３月 23 日　第 31 回（最終回）予定、３月 31 日付で部会解散予定

④三木部会
- 2021 年３月 12 日　第６回
- ４月 23 日　第７回
- ６月 25 日　第８回
- ７月 28 日　第９回
- ９月 24 日　第 10 回
- 10 月 22 日　第 11 回
- 11 月 19 回　第 12 回
- 12 月 17 回　第 13 回
- １月 21 日　第 14 回
- ２月 18 日　第 15 回
- ３月 25 日　第 16 回予定

⑤青山部会
- 2021 年３月３日　第１回
- ４月６日　第２回
- ６月 24 日　第３回
- ８月５日　第４回
- 10 月 22 日　第５回
- 12 月 10 日　第６回
- １月 18 日　第７回
- ２月 22 日　第８回
- ３月 22 日　第９回予定

⑥細川部会
- ８月３日　第１回
- ９月 29 日　第２回
- 11 月２日　第３回
- 12 月 22 日　第４回
- ２月８日　第５回
- ３月１日　第６回予定

⑦別所部会
- １月７日　第１回
- ２月３日　第２回
- ３月３日　第３回予定

今年度も新型コロナ感染拡大の影響により前半期には、部会の休会があったなど影響があったが、月１回程度開催される協議については各部会とも

おおむね順調に開かれた。ただし、昨年度末一杯で志染部会が解散になった一方で、今年度に入り細川部会と別所部会が立ち上がり、近々には自由が丘部会や、三木南部会なども立ち上がっていく予定になっており、通史編を含め同時並行でこれだけの部会に対応するには、現在の編さん室の体制では個々人にかかる負担があまりに大きく、仕事の質の観点からもあまり良い状態とはいえないだろう。刊行計画が変更された際に、このような状況に陥ることは予想されていたが、実際にその状況に入ってみると、あらためてそう感じる。一見、仕事はこなされているように見えても、質の面への影響は目にみえない形で影響しているように思われる。

今年度の編さん室の体制は、年度当初３名いた市史編さん学芸員が途中１名の退職で２名となり、２度の公募を出したが、結局新規採用には至って居らず、もうしばらく２名で推移せざるえなくなっている。史料の整理などを行う編さん補助員（アルバイト）や「市史編さんボランティア」の協力によりかろうじて成り立っているという状況である。人員の少なさは、たとえば新たな文書群の調査・受入を制限せざるをえない現状の要因の一つにもなっており、これは市史編さんの根幹に関わる部分にほかならない。市当局の対応も含め少しでも状況が改善されることを強く望むものである。

これまで三木市立みき歴史資料館の企画展として「地域の史料たち」と題する展示が企画されてきたが、今年度は２期振りに開催された。企画は、みき歴史資料館との合同で進められ、「地域の史料たち５～三木の染め型紙～」というタイトルで、11 月６日から１月 16 日まで開催された。次年度の予定は未定である。

また、例年旧玉置家住宅において神戸大学古文書合宿が開催されてきたが、今年度も新型コロナの影響により三木市での開催は断念され、神戸大学での開催となった。その際三木市域の文書群を整理作業に提供予定だったが、諸事情により三木の文書は使用されなかった。地域の史料を古文書合宿に提供することは、大学と地域との交流の一部という側面のあるので、今後は仮に大学開催となっても、地域との連携の中で地域の史料を利用できるように関係者間協議のもと実現することが望まれる。

市史編さん事業に関わる今年度の逐次刊行物としては、『市史編さんだより』第 10 号（3 月 31 日付発行）、第 11 号（9 月 30 日付発行）、および市史編さん室紀要『市史研究みき』第６号（9 月 30 日付発行）を発行した。なお、『市史編さんだより』については、年度内に第 12 号の発行を目指している。

2. 商工観光課との連携事業

2010 年度より文化庁の地域伝統文化総合活性化事業（「三木市文化遺産総合活用活性化事業」）として、市民グループ「旧玉置家住宅文書保存会」による襖下張り文書保存活動が行われたが、事業終了後も市民グループ主体の活動が維持され、同会の活動支援を実施している。

3. 三木市立みき歴史資料館

三木市立みき歴史資料館の事業について、館長の諮問機関である「みき歴史資料館協議会」の委員（会長）として参画し、同館の運営等に関わる助言を行った。

今年度は、10 月 15 日に第１回協議会が開催されており、３月 17 日には今年度第２回の協議が予定されている。

（文責・木村修二）

三田市との連携事業

昨年度に引き続き、「旧三田藩主九鬼家資料の総合調査」という課題名で、三田市が所蔵する旧三田藩主九鬼家資料「松嶽公寛永書牘及松嶽院様御書之写」（木箱１箱）の整理を実施した。2022 年３月７日に人文学研究科地域連携センターで

当該の資料群を引き取り、資料の写真撮影および文書目録採録作業を行った。なお、写真撮影は本学人文学研究科博士後期課程の下箱石響氏が担当した。また同日に、三田市より整理・調査のため借用していた「松嶽公寛永書牘」乾・坤（巻子装、計２本）を返却した。

（文責・加藤明恵）

丹波篠山市との連携事業

1. 丹波篠山市史編さん資料調査等業務共同研究

1999 年に篠山・今田・丹南・西紀の 4 町が合併して発足した篠山市は、2019 年に丹波篠山市と改称して今日に至っている。合併前に存在した各町村では折々に町村史が編纂されてきたものの、記述内容が町村制発足以降の行政史に留まっているものが多い。加えて唯一通史的な叙述スタイルをとった『丹南町史』（上下巻・1994 年刊）にも、史料編が存在しないなどの問題点があった。このような背景から、2019 年度より『丹波篠山市史』（仮称）の編纂が目指されることとなった。市史の編纂に際して神戸大学と丹波篠山市との間で「丹波篠山市史編さん資料調査等業務共同研究」にかかる契約書が締結され、今日に至っている。

まず、これまでの経過を簡潔にまとめておく。初年度にあたる 2019 年度は、市史編纂の準備期間として市史編纂の基本方針や刊行スケジュールを作成した。2 年目にあたる 2020 年度は、市史編さん委員会と各専門委員会が発足し、基本方針や刊行計画を策定した。また、市側で市史編纂担当の係長や会計年度任用職員が着任し、歴史資料の所在調査や整理作業を進める体制が整えられた。

3 年目にあたる 2021 年度は、市史編さん事業のための歴史資料調査を継続した。調査や受け入れにつながった主な史料群は、「川北自治会文書」、「丹波国多紀郡和田村石田家文書」、「森田栄家文書（丹波国多紀郡安口村）」、「上立町自治会文書」、「依田家文書（篠山藩剣術師範・収集による寄贈史料）」、などである。また、『丹南町史』編纂時に収集されたマイクロフィルム等のデジタルコンバートや、青山歴史村収蔵の絵図史料の高精細スキャンについても取り組んだ。

さらに事業全体の進め方に関わっては、2021 年 11 月 10 日の関係者会議を経て、2022 年 2 月 4 日に市史編さん委員会および通史編・地域編専門委員会が開かれ、今後の事業計画案などについて話し合われた。次年度はこれまでの歴史資料調査を継続しつつ、ボランティアとの連携を視野に入れ、定期的な調査成果の発信方法についても検討を進めていく予定である。

2. 市立中央図書館「地域資料整理サポーター」活動への協力

地域資料整理サポーターは、中央図書館に所蔵される未登録の郷土資料を整理し、そのことによって地域史に関わる資史料の公開や活用につなげていくことを目的として、2013 年度に結成された。2014 年度からは「丹南町史編纂史料」を対象として、目録作成や手書き翻刻文の PC 入力などを進めている。2019 年度にはサポーター有志による学会誌への活動報告が掲載されるとともに、『丹南町史』編纂担当者を交えた座談会・中央図書館での資史料展示が催された。さらに町史編纂時からの課題であった『史料編』が製本されるなど、大きな前進が見られた。定例会議のほか、毎週水曜日がサポーターの「自主活動日」とされており、継続的に資史料の整理が進められている。本サポーター活動は本年度より市史編纂の取り組みの一環として位置づけられ、2021 年 4 月 18 日（ハイブリッド）・6 月 20 日（ハイブリッド）・7 月 18 日・9 月 19 日・10 月 17 日・11 月 21 日・2022 年 1 月 16 日の計 7 回にわたる「サポーター会議」に地域連携センターの特命助教が出席する形で活動支援をおこなった。これらの会議では、日常の資史料目録作成や翻刻文の入力に関する折々の課題が共有され、解決方策について話し合われるとともに、具体的な史料の講読をおこなっ

ている。また、2021年10月17日の第5回会議では、町史編纂に携わり、『下巻』の執筆に尽力された上田和夫氏の講演「丹南町史編纂作業の実際について」が企画された。

なお、今年度の定例会議で講読した史料は下記の通り（整理番号・表題・年月日の順に記載）。

- 園田里美家文書（大山上村）D50-4「〔篠山藩会所の達書留〕」より慶応4年（1868）正月12日の「農商覚書」など
- 園田家文書H16-75「御請書（倹約につき大山宮村惣百姓63名による連印）」、安永3年（1774）8月
- 中沢丙家文書（徳永村）H1-22「京師風聞書」、元治元年（1864）7月
- 園田里美家文書（大山上村）H16-119「御触書（博奕取締につき）」、享和元年（1801）8月
- 園田里美家文書（大山上村）H16-61「口達書写（郷方着服規定）」、安永3年（1774）8月
- 上田太一郎家文書（犬飼村）H37-3「〔断簡〕（上田太仲の所信につき）」、文化12年（1815）正月

3.「地域歴史遺産保全活用演習A（他）」の学内実施

文学部および人文学研究科では、これまで「地域歴史遺産保全活用演習」もしくは「地域歴史遺産保全〔企画〕演習」等の集中科目（通称：古文書合宿）を、夏（A）と冬（B）に分けて開講してきた。これらの演習は、史学専攻の学生や博物館学芸員をめざす学生が、歴史資料の基本的な取り扱い方を学ぶ実践の場である。2011年度からは、農学部・農学研究科の丹波篠山フィールドステーション等による協力や支援を得ながら、丹波篠山市における夏の古文書合宿を2泊3日の日程で実施してきた。

しかし2020年度は新型コロナ禍の影響により、やむを得ず日程を2日間に縮小した上で、学内において整理実習をおこなった。例年学内で実施していた「事前指導」も、「うりぼーネット」や「Googleドライブ」を利用したオンデマンド型の配信に切り替えている。今年度も新型コロナウイルスの感染状況が好転しなかったことから、以上の実施方法で2021年9月7日（火）・8日（水）に整理実習をおこなうこととなった。

整理対象としては、「篠山藩士鈴木次三郎家文書」、「篠山藩士山本家文書」、「丹波国船井郡上胡麻村庄屋木戸氏文書」、「丹後国竹野郡成願寺村岩城屋文書」、「篠山砲術指南関係文書」を選んだ。これらは、2015年度から2018年度にかけて科学研究費によりロードス書房から購入された丹波篠山市由来のもので、それ以来人文学研究科の古文書庫に収められていた。文書群の概要等について、以下に簡単な説明を加えておく。

1件目の文書群を伝えていた鈴木家は、寛文2年（1662）に江戸で出仕した忠右衛門弘際に始まり、近世を通じて7名の当主を輩出している。篠山城の北堀端に居を構えており、6代目の鈴木吉作（傳兵衛）弘長の代には家禄100石を与えられている。同家の文書群は、昨年度から整理に着手しているが、今回の実習を経てなお若干の未整理史料が残った。

2件目の文書群に関わる山本家も篠山藩士で、貞享2年（1685）に浜松で出仕した惣七應齋に始まり、近世を通じて6名の当主を輩出している。同家の文書群は今回の実習で全52点の整理が全て終了した。年代幅は享保15～明治35年（1730～1902）頃で、家関係の史料のほかには、御用状・差紙や、屋敷絵図などが含まれている。

3件目の木戸氏文書は、篠山藩領ではなく園部藩領の村であるが、購入史料の一群に含まれていたため実習に供した。上胡麻村は元禄13年（1700）時点において437石余の村で、村の西部分が「木戸分」、東部分が「塩貝分」に分かれているという。本文書群も今回の実習で全23点の整理が完了し、宝永2～明治12年（1705～1879）頃の年代幅であることが分かった。木戸氏の先祖にあたる「佐々貴氏」の由緒書や、「古苗五姓」という親族集団の「誘引弓状之事」といった史料が含まれている。

4件目の岩城屋文書も、篠山藩領外の史料群で

ある。成願寺村は629石余の村で、近世には主に丹後国宮津藩の支配を受けた（ただし、寛文6～9年〔1666～69〕、延宝8～9年〔1680～81〕、享保2～宝暦9年〔1717～59〕は幕府領）。全72点の整理が完了し、嘉永元～明治27年（1848～94）頃の史料が含まれていた。岩城屋が庄屋や戸長として年貢銀を取り扱った際の通帳が多い。

5件目の篠山砲術指南関係文書は、上記4件とは異なり2018年度にロードス書房より購入された史料群である。整理点数は45点で、年代の上下限は文政8～安政4年（1825～57）頃となっている。荻野流砲術の極意書や調練記録などが含まれる。篠山藩士と推定される「松田景美」の作成した史料が比較的多い。この史料群についても全点の整理が完了した。

整理実習は30名強の受講者を4つの班に分けて実施した。作業場所として、人文学研究科内の4つの教室を割り当てた。2日間を通じて作成できた歴史資料目録（紙ベース）は290点となり、丹波篠山市に由来するものは「丹波篠山市史編さん基礎資料調査資料」に登載された。

4. 市立中央公民館主催「古文書講座（中級編）」への出講

中央公民館では2020年度まで古文書の読み解き方をテーマとした初級者向けの「古文書入門講座」が開講されていた。しかし、受講回数に制限が設けられており、「卒業者」を含めた既受講者を対象とした受け皿づくりが課題とされていた。このような背景のもと、年間5回ずつの「初級編」と「中級編」から構成される「古文書講座」が新たに始められることとなった。

地域連携センターでは2017年度より出講を続けてきたが、今年度は全5回の「中級編」を特命助教が担当した。各回のテーマは以下の通り。史料としては「青山氏『禮典』」、「篠山藩士鈴木家文書」（以上神戸大学大学院人文学研究科所蔵）、「青山家文書」（青山歴史村所蔵）、「丹波国多紀郡和田村石田家文書」を使用した。

- 2021年11月15日（第1回）「青山氏「禮典」に見る歴史書の編纂」
- 2021年12月20日（第2回）「淘宮術の「秘書」―運命は変えられる！？―」
- 2022年1月24日（第3回）「篠山藩士の履歴をたどる」
- 2022年2月7日「禁門の変に随伴した庄屋の日記」
- 2022年3月7日「禁門の変に随伴した庄屋の日記（2）」

また、今年度は講座の内容をまとめたテキストが中央公民館から発行されることになり、地域連携センターでも原稿を執筆した。2022年3月4日付で『丹波篠山市古文書講座　初級編・中級編』が刊行され、中央公民館で有償提供されている。

5. 部落史研究委員会へのアドバイザー協力

2020年度に発足した部落史研究会は、「部落史研究会ささやま」を母体としている。この研究会は市域における藩制時代の差別政策を検証するため、2007年5月に発足した。地域連携センターの学術研究員（当時）が講師として参画するようになったのは2018年度からのことで、以来毎月2回の研究会を実施してきた（毎月1回目に会員での解読、2回目に講師が加わって校正）。市側からも、人権推進課の後援を得ている。

丹波篠山市には、これまで多くの部落史研究に用いられてきた「西誓寺文書」が伝えられており、特筆すべきものとして寛政4年（1792）から安政5年（1858）にかけて書き継がれた「日々年代記」がある。また、「小川家文書」に含まれる「郡中歳代記」は、幕末まで篠山藩を支配した青山家が寛延元年（1748）に入部する以前の時期に遡る記録として、貴重なものである。部落史研究委員会はこれら基礎的史料の全文解読を目的として発足し、正確な史料集の取りまとめと市民への啓発を目指している。

部落史研究委員会において、「部落史研究会ささやま」の研究会活動は専門部会の一環として位置づけられ、今年度も月2回の専門部会を通じ

て「小川家文書」の「郡中歳代記」と「西誓寺文書」の「日々年代記」第1・2冊の解読作業を進めた。

今後は対象とする史料が膨大であることから事業期間を2年間延長した上で、翻刻作業の精度を高め、成果物の取りまとめに傾注する予定である。

6. NPO法人SHUKUBA古文書講座への出講

2019年7月に設立されたNPO法人SHUKUBAは、2016年3月に閉校した旧福住小学校を拠点にカフェの運営や創作活動の支援などをおこないながら、旧本陣というアイデンティティを持つ福住地域の魅力を発信している。2020年度から地域に眠る歴史資料を保全し、活用していくことを目的として「古文書講座」がスタートすることとなり、地域連携センターの特命助教へ講師の依頼があった。

今年度は新型コロナ禍により講座の開始が年度後半にずれ込んだものの、計2回が実施された。各回のテーマは以下の通り。史料としては丹波国多紀郡西野々村の馬場家・畑家文書を使用した。

- 2021年12月6日（第1回）「慶応元年の助郷歎願～将軍進発と籾井郷～」
- 2022年2月25日（第2回）「畑家文書からわかる江戸時代の西野々村～慶応3年の山論を中心に～」

上記の講座では史料所蔵者や古文書の整理を手掛けた市民の方をゲストスピーカーに迎えることで、内容の充実を図った。今後も住民参画のあり方を追求することで継続的な取り組みとするべく協力を続けていきたいと考えている。

7. その他の会議・研究発表

- 2021年6月3日（木）の丹波ささやま市民文化講座において、「幕末の政情と篠山～山陰道鎮撫使と村々の対応」と題する講演をおこなった。
- 2021年12月24日（金）の令和3年度丹波篠山市・神戸大学連携推進協議会に出席（オンライン）し、人文学研究科地域連携センターの事業報告をおこなった。
- 2022年2月26日（土）の第2回丹波篠山研究発表会に出席（オンライン）し、「『太十』と丹波篠山の百姓一揆」の題で発表した。

（文責・松本充弘）

明石市との連携事業

1. 明石藩関連資料調査・公開業務

明石市立文化博物館では、2013年より同館所蔵の黒田家文書および明石藩関係史料の整理・分析成果の公開のため、毎年企画展「明石藩の世界」を開催している。今年度は、企画展「明石藩の世界Ⅸ―幕末維新と人々のくらし」（会期：2021年9月11日～10月17日）を、明石市、明石市立文化博物館、本学人文学研究科地域連携センターが主催した。展示製作にあたっては、明石市立文化博物館とともに、加藤明恵が構成立案、史料調査、パネル・キャプション製作に携わった。また、展示図録への解説記事・論考「幕末期明石藩領の役負担と長州戦争」を執筆した。

展示関連企画として明石市立文化博物館において9月18日に加納亜由子（明石市文化・スポーツ室歴史文化財係）「東京高輪の旧藩主松平家と明石士族」、10月3日に加藤明恵「幕末期の戦乱による明石藩領村々の役負担」と題して講演会を開催した。今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により定員を例年の約半分の40人として開催し、従来同日に行っていた2講演をそれぞれ別の日に行った。なお、文化博物館では特別講演会を9月19日に実施した（髙久智広（関西大学文学部）「幕末の大阪湾防備と明石藩」）。

2. 明石市における地域資料の調査

地域資料調査

本調査は2015年度より、明石市市民生活局文化・スポーツ室文化振興担当市史編さん室と共同で継続している。今年度は、主に①田中彰朗家文

書、②卜部和彦家文書（大久保町西島）の調査を行った。

①田中彰朗家文書調査

田中彰朗家文書は、明石市史編さん室が所蔵する近世～近代の酒造業に関わる史料を含む文書群（古文書箱 7 箱）であり、2021 年 2 月より調査を開始した。2021 年度も調査を継続し、2021 年 10 月に目録作成が終了した。調査は本学人文学研究科の大学院生（下箱石響氏・戸部愛菜氏）、本学人文学研究科学術研究員の義根益美氏の協力を得て、7 月 28 日、8 月 6 日･25 日、9 月 10 日･25 日、10 月 15 日・31 日に行った（計 7 回）。

②卜部和彦家文書調査

2018 年度より卜部家より明石市史編さん室に文書を借用し調査を進めた第 1 回借用分史料および市史編さん室事務局に以前より借用されていた史料の目録作成・写真撮影はそれぞれ 2019 年度・2020 年度に終了し、これらの史料は 2020 年 12 月 12 日に卜部家に返却するとともに、第 2 回目の史料借用を行った。また、2021 年 3 月 6 日には、新たに確認された近世～近代の酒造業に関する史料を借用した。今年度は、第 2 回目以降の借用史料の調査を進めた。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により大人数での調査が困難であったが、本学人文学研究科の大学院生（下箱石響氏・戸部愛菜氏）、本学人文学研究科学術研究員の義根益美氏の協力を得て、2021 年 11 月 16 日･21 日、12 月 14 日･26 日、2022 年 1 月 21 日･25 日､2 月 9 日･27 日に行った（計 8 回）。

古代播磨の歴史文化遺産調査

2019 年度から古代部会と共同し、古代を中心とする播磨地域の歴史文化遺産の調査を開始した。今年度は高橋明裕氏と渡部陽子氏が、本学人文学研究科の非常勤講師として調査・研究を進めている。今年度は、『群書類従』、『続群書類従』、『続々群書類従』等から、明石郡･美嚢郡･印南郡･加古郡に関係する古代・中世の史料を抜き出して史料収集を進めた。

近代史料の調査

明石市史編さん委員会近代部会と連携して、明石市域に残る近代史料の調査を本学人文学研究科学術研究員の長町顕氏が実施した。また、神戸又新日報の明石関連記事の検索・リスト作成については、明治期を本学人文学研究科博士課程の下箱石響氏が、昭和期を牧野竜也氏が実施した。

明石市史編さん委員会

2021 年 10 月 3 日に明石市立文化博物館において開催された明石市史編さん委員会へ、地域資料調査の担当者として出席した（7 月 3 日開催の市史編さん委員会は欠席）。2022 年 3 月 26 日に開催予定の市史編さん委員会へも出席予定である。

3. 横河家文書調査・公開業務

本事業は 2016 年度に開始したが、2018 年度は一時中断し、2019 年 8 月より調査を再開した。横河家は明石市東二見にルーツを持つ家であり、同家より明石市に寄贈された 2,982 点の史料の調査を進めている。今年度は、箱 5 の文書目録作成・写真撮影、箱 6 の付番作業、箱 12 の仮目録作成（468 点）を進めた。なお、箱 12 は以前に一度仮目録が作成されているが、本整理作業の方針に照らして付番を改め､仮目録を再作成した。箱 5 の目録作成は藤川永子氏が担当し、箱 12 の仮目録は加藤明恵が担当した。調査は、2011 年 8 月 11 日･27 日･31 日､9 月 17 日､10 月 26 日､11 月 5 日･12 日､2022 年 2 月 15 日に行った（計 8 回）。また、また箱 4・5・12 の写真撮影は業者（エイチ･エス写真技術株式会社）に依頼した。

今年度は、整理済みの文書 17 点を企画展「明石藩の世界Ⅸ―幕末維新と人々のくらし―」に出展し、横河安鼎の経歴や三条家諸大夫森寺家との関係、横河家による幕末期の政事情報収集に関する調査成果を発表した。

いまだ未調査分が多いため、次年度以降も継続して調査を進める予定である。

（文責・加藤明恵）

たつの市との連携事業

2006年に発足した神戸大学近世地域史研究会は、毎月1回日曜日の午後に開催している市民を中心とする研究会である。今年度から原則第1日曜日に固定した。会員数は阪神地域・播磨地域在住の約15名で、江戸時代の地域史料を翻刻している。報告担当者は毎月数名で、割り振られた担当部分の翻刻、用語説明や関連文献などを発表する。現在はたつの市龍野町所在善龍寺所蔵文書のうち幕末の寺院留「御本殿御地頭御触記録」の解読に取り組んでいる。学習の振り返りを目的とする「会報」は2022年2月6日付け第40号が最新号となる。

今年度も昨年に引き続き新型コロナウィルス感染問題を考慮してオンライン（zoom使用）で開催したが、大学の活動制限指針に鑑みて12月5日の例会は対面・オンラインのハイブリッド形式で実施した。ただ大学入試共通テストを考慮して全学的にオンライン授業となったため、その方針に従い1月9日の例会はオンライン形式とした。

12月に開催したハイブリッド形式例会について、会員の感想を以下にまとめた。

【対面での参加者】

・大学に来たほうが話しやすい。

・オンラインは発言のタイミングが難しく、話したくても声が出ないことがある。発言が重なることもある。

【オンラインでの参加者】

・大学で参加したかったところ今回は用事があり自宅からの参加となったが、都合に合わせて対面かオンラインかを選べるのがありがたい。

・自宅であれば辞書を運ばなくてよく楽ではあるが、大学に参集されている方々が楽しそうで羨ましい。次回はできる限り大学に行きたいと思う。

・体調が良くないがオンラインでも参加できるのでありがたい。

・自宅が遠方であるため往復の移動が大変だったが、オンラインであれば移動時間がかからないところがありがたい。

なお、360度カメラ付きスピーカーフォン（MeetingOwl）を使用したが、zoomの画面では対面参加者が小さく写ったため、オンライン参加者には対面参加者の顔が見えづらいという意見があった。しかし、参加者のニーズに合わせて参加方法を選べることについてはおおむね歓迎されたといえる。会員の高齢化の問題もあり参加者数が徐々に減少する傾向は続いているが、ハイブリッド形式を取り入れることによって、より広い参加を得ることができるのではないかと期待している。学生など若い世代の参加も促したい。

（文責・室山京子）

姫路市香寺町との連携事業

2022年3月10日に香寺公民館において開催された、香寺町史研究会の報告会「令和3年度提案型協働事業報告会「昭和30年代の住まいと暮らし」」において、室山京子が「地域の人たちと古文書を読みとく」と題して講演した。また、井上舞が会員の報告についてコメントした。

（文責・井上舞）

佐用町との連携事業

今年度は事業として実施しなかった。ただし、地域連携センターを拠点とする、科学研究費補助金「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」にかかる研究会において、佐用町教育委員会の藤木透氏に「2009年佐用町水害とその後の「まち」」と題して報告いただいた。

（文責・井上舞）

福崎町との連携事業

福崎町とは2009年度より共同研究「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし及び大庄屋三木家住宅活用案の作成等」を開始した。その後、2017年度からは「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」と「大庄屋三木家住宅文献資料調査」（2017年度は民俗資料調査）の２つに分けて、それぞれ共同研究に取り組んでいる。具体的な活動については、以下の通りである。

1. 共同研究「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」

松岡家関係資料調査

2021年は、松岡五兄弟の末弟で、日本画家の松岡映丘（輝夫）の生誕140年であった。これについて、昨年度より松岡映丘に関する資料の収集・調査を行ってきた。その成果として、福崎町立柳田國男・松岡家記念館にて記念展「松岡映丘～近代大和絵の導き手～」が開催された（会期：10月２日～11月28日、地域連携センター協力事業）。

・地域所在資料の調査・整理

○　中島区有文書の調査・整理

福崎町南田原中島が所蔵する区有文書について、2018年度に中島区長より依頼を受け、毎月第４水曜日に地域住民とともに資料の整理・調査を進めてきた。調査の過程で、地域の方から古文書の寄贈を受けたほか、同地区内にある五合堂からも資料が発見され、今年度はそれらの調査・整理を進めた。整理作業は概ね終了した。次年度は成果のとりまとめを進める予定である。

○　その他地区の区有文書の整理

福崎町では現在、区有文書の所在確認調査が進められている。確認した区有文書について可能な範囲で地域住民を交えた整理会を開催している。今年度は、５月29日に東大貫で、2022年１月９日に神谷区で区有文書の整理会を開催した。次年度についても引き続き実施する予定である。

「広報ふくさき」での成果還元

連携事業の成果を広く知ってもらうべく、連携事業開始時より『広報ふくさき』誌上に調査成果を寄稿している。今年度は、松岡映丘について連載した。本年度の掲載月は、６月～８月、10月～１月、３月であった。

2. 兵庫県指定文化財　三木家住宅文献資料調査

・文献資料調査

2017年度より、大庄屋三木家文献資料（通称、三木家文書）の調査を進めている。2019年度より未整理資料の目録作成を進めている。今年度は、三木雅雄氏より新たな資料の寄贈を受けたため、これの整理・調査を行った。寄贈資料の中には、柳田國男をはじめとする松岡家関係の書簡・葉書類も含まれており、これの目録作成を進めた。

また、今後の活用に資するべく、昨年度より資料集を作成している。今年度は「大庄屋三木家資料集３」として、三木家の婚礼に関する資料（「三木藤作婚姻一件」「縁約一条控」「三木通深婚姻襍記」の翻刻集を作成した。翻刻は室山京子が担当した。

あわせて、三木家文書のうち使用頻度の高い資料について、業者によるデジタル化を行った。

・三木家資料保存ワークショップの開催

2019年度に調査した、三木家住宅内のふすま下張り文書について、2020年度より地域住民とこれを剥がすワークショップを開催している。2020年度は試行的に３回実施した。今年度は隔月開催としたが、コロナ禍のため２回が中止となった。開催日は、５月９日（中止）、７月３日、９月４日（中止）、11月６日、１月８日、３月５日であった。また３月はこれまで剥がした下張り文書の内容についての成果報告会とした。参加者の反応は概ね好評で、次年度以降も継続して行っていきたい。

・調査成果の還元

調査成果を広く知ってもらうべく、例年、三木家住宅において資料展示を行っている。今年度は婚姻をテーマとし、特別展示「大庄屋三木家と冠婚葬祭　三木家の婚礼」（会期：10 月 30 日～11 月 30 日）として開催した。また、11 月 3 日には、三木家入門講座として井上舞が「三木通深の結婚」と題した講演を行った。

3. 事業報告書の作成

上記 1．2．の事業についてそれぞれ報告書を作成した。

4. その他

井上舞が、福崎町文化財保存活用地域計画作成にかかる委員として、委員会に出席した。今年度の委員会は、7 月 7 日、11 月 12 日、2 月 15 日であった。

（文責・井上舞）

猪名川町との連携事業

有志による自主運営で開催している「猪名川の古文書を楽しむ会」の例会を、今年度も、第 3 土曜日をレギュラーに実施してきた。ただし、コロナ禍のため 8 月、9 月、2 月、3 月は休会となった。

（文責・木村修二）

大学協定にもとづく大分県中津市との連携事業

大分県中津市は、神戸大学の 前身である神戸高等商業学校初代校長である水島銕也の生誕の地である。2014 年より同市との交流がはじまり、2016 年には中津市と神戸大学との包括的連携協定が締結された。

今年度は、11 月 15 日（金）に開催された中津市歴史博物館協議会に、奥村が委員長として zoom 参加、松下（地域連携推進本部）が副委員長として出席した。また、中津市内高校への出前講座を予定していたが、新型コロナ感染拡大の影響により、中止、延期となった。

（文責・奥村弘）